

組織の目標設定シート(行政経営Aシート)

組織	道路建設課
職	課長
氏名	松田 洋一郎

組織の使命・役割	何のために我が組織が存在するのか、我が組織が果たすべき使命・役割は何か
「個性、交流、安心のふるさとづくり」を目指して、交通基盤を整備することにより、 ①広域交流の推進 ②地方生活の支援 ③経済活力の向上を図る。	



組織の目標	使命・役割を果たす上で、我が組織が目指すゴール(成果)は何か、その目標値はどのような水準か
(定性的目標)	何をどのような状態にしたいか
①広域交流を推進する道づくり: 広域的な交流基盤の整備を進めるとともに、本県の多彩な特色を活かし、道路自体をも観光資源とする「いしかわ版シーニック・バイウェイ(※1)」の整備を進める。 ②地方の生活を支える道づくり: 安心して運転ができるよう、生活道路における乗用車同士がすれ違える道幅や対向車との出会い頭の事故防止のための見通しを確保する。 ③経済活力を高める道づくり: 県内広域幹線道路網の強化を図り、空港、港湾、インターチェンジ等へのアクセスを向上する。 ※1: シーニックバイウェイとは、「風景の良い道路」の意味で、沿道景観をみながら、自然・歴史・文化などを体験できる施設を巡るルート	

(定量的目標)	具体的な指標、目標値を設定する				
目標とする成果指標	現行値	年(度)	目標値	年(度)	目標値の設定根拠(他県との比較など)
①輪島～名古屋間の所要時間	4:20 時間:分	H23 年度	3:50 時間:分	H27 年度	石川県新長期構想(改訂)
①いしかわ風景街道(※2)の指定ルート数	4 路線	H23 年度	6 路線	H27 年度	石川県新長期構想(改訂)
①高規格幹線道路(※3)のIC～30分以内で到達できる区域に住む人口の割合	79 %	H23 年度	90 %	H27 年度	石川県新長期構想(改訂)
②生活道路のうち待避所等が整備され安心なすれ違いが確保された区間の割合	86 %	H23 年度	90 %	H27 年度	石川県新長期構想(改訂)
②合併支援道路に指定された区間のうち、整備済区間の割合	73 %	H23 年度	90 %	H27 年度	石川県新長期構想(改訂)
③高速ネットワーク確保率(※4)	80 %	H23 年度	85 %	H27 年度	石川県新長期構想(改訂)

※2: いしかわ風景街道とは、世界農業遺産に登録された「能登の里山里海」景観や「霊峰白山と手取峡谷」の眺望を楽しみながら、ゆっくり周遊できる「おもてなしのみち」

※3: 高規格幹線道路とは、北陸自動車道及び能越自動車道を指す

※4: 高速ネットワーク確保率とは、「ダブルラダー結いの道」整備構想構成路線の整備率



24年度に重点的に取り組むべき課題	左記の具体的な内容を記載する
①高規格幹線道路網の整備促進	平成20年度に全線開通した東海北陸自動車道に続く能越自動車道(七尾氷見道路、輪島道路)の整備促進を要望。
①いしかわ風景街道の指定	ルート上にある「寄り道パーキング」について、市町や地元住民と協議を行い、H26年度までに20箇所の整備を進める。
①追加インターチェンジの整備促進	安宅PAスマートICの常設化(H21.4.1)に引き続き、H24春の白山インターチェンジの完成に向けた整備を進める。
①有料道路無料化に伴う安全対策	無料化に伴い交通量増加が見込まれ、能登有料道路の4車線化・直線化、加賀産業開発道路の4車線化を進めるとともに、能登有料道路については、逆走防止装置などの安全対策を実施する。
②生命・生活を守るみちづくり(生活道路の整備)	1. 5車線の道路整備(※5)の導入による住民ニーズに応じた効果的な整備を進める。
②市町村合併を支援するみちづくり(合併支援道路の整備)	新市町内の公共施設等の拠点を連絡し、住民の快適な暮らしを支える道路整備を進める。
③県土を一体化し、広域交流を進めるみちづくり(広域幹線道路の整備)	国土交通省、隣県(富山、福井、岐阜県)と緊密な連携を図り、「ダブルラダー結いの道」整備構想の実現を目指す。

※5: 1. 5車線の道路整備: 比較的交通量の少ない道路において、待避所の設置や見通しの悪いカーブ区間の改良といった小規模な工事を行うことで、速やかに走行性と安全性の改善を図る整備手法